



すすんで学ぶ  
心豊かな子  
たくましい子

# 中宮

令和3年10月1日  
第625号  
枚方市立中宮小学校  
校長 池原 義人

## 「楽しくカー杯」の2学期のために、「楽しくカー杯」の将来のために

### コロナによる影響続く

2学期が始まってすぐの8月31日(火)から二日間、そこから2週間後9月15日(水)の一日間と2回にわたり臨時休校となりました。また、緊急事態宣言が延長されたことを受け、修学旅行の日程変更も余儀なくされました。変更後の日程は12月16日(木)~17日(金)です。もしものことを考えて1学期のうちに、日程を押さえていたのですが、以前から予定している学校行事のことを考えると、この日程しかありませんでした。2学期終了間際である上に、寒くなってくると感染が拡大すると言われていました。なんとか予定通りの9月30日(木)出発を祈ったのですが、無情にもその願いは通じず、緊急事態宣言延長は、出発日当日までとなりました。

12月に無事実施できるのか心配でありませんが、子ども達の安全を考えてもルールには従わなくてはなりません。出発前に学級閉鎖や学年閉鎖になってしまうと、緊急事態宣言の有無に関わらず実施できなくなってしまいます。また、10月31日(日)には第50回運動会開催も控えています。まずは、校内での感染対策や自らの体調管理を徹底していくことが重要となります。子ども達のためにも、保護者の皆さまのご協力をお願い致します。

### 全国学力学習状況調査の結果から、子ども達の将来を考える

前回の学校だよりで「小学生で学習する漢字や算数の計算などは、どのみち必要になってきます。いましっかり身につけておくことが大切です。」と書きました。

これは、担任していた生徒の中で、中学校までの不登校生活から、自分の人生を立て直した生徒の実体験を見て、伝えたかったことなのです。これらの生徒の大半は、学校へ行かずとも家庭でしっかり学習していました。自学ですから、大半の生徒は、基礎的な計算や漢字学習が主ですが、その中に自分で教科書をしっかり読んでいた者が何人かいました。それらの生徒は、入学後の資格検定試験において簿記1級、文書処理1級など高い資格を取得して、優良な企業に就職していきました。逆に家庭内での学習から逃げていた生徒は、学校内だけの勉強だけで終わり、それ以外の努力ができないので良い結果は伴いませんでした。

本年度の全国学力学習状況調査の結果は、令和元年度と比較すると国語も算数も上昇傾向が見られました。ただし、全国や大阪府の平均と比較すると、大きな差を埋められたとは言えません。どこにその原因があるのか、教職員全員で児童全員的答案を全問について分析しました。問題ごとに詳しく分析し、改善策を模索しました。詳しくは、別紙プリントをご覧ください。

手をあらおう



全体を見ての深刻な問題点として、問題文自体を読み解くことができない児童が、かなり大きな割合でいることです。計算の学習により、計算はできる。漢字の学習により、漢字の読み書きはできる。しかし、問題文を読んでどの計算を求められているのか分からない。単純に漢字の読み書きを答える問題には正答しても、その漢字を使って、もしくは問題文に書かれている文言を使って、求められている文章を書くことができない。簡単に言ってしまうと、これが何よりの原因だと思いました。

学力調査とともに質問紙調査があり、学校以外での学習時間を問うものがあります。30分以上では、4.6ポイントしかない全国との差が、1時間以上で見ると12.5ポイントと大きく開きます。これは、宿題などに費やした時間以外には、ほとんど勉強していないという結果だと考えられます。

学校としては、家庭の事情や各々の能力を考えて宿題を出していますが、家庭学習の量で、全国の小学生とこれだけの差がついているという現実には、見逃すわけにはいきません。私の勤めていた学校の生徒の話ではないですが、中学校から次のステップに向かうとき、いきなり現実を突きつけられ、不本意な進路を選択せざるを得なくなる。その進路を選んだものの、不本意がゆえに高校生生活が面白くない、やる気が出ない、辞めてしまう。高校入試のそのあとも同様です。中学、高校、大学や就職等、社会が広がれば広がるほど、自分よりも、もっとたくさんの時間勉強してきた(努力してきた)人間と出会うことになってしまう。そんな現状を何とかしなければなりません。

学校では、別紙プリントの「分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと」に挙げたことを、学校全体で統一して、徹底して、継続して指導していきます。ご家庭で、家庭学習に改善の余地がある場合は、ぜひともご協力いただきたいと思います。



### 素直な心を大切にしながら

1学期からあいさつをするように何度も話をしてきました。たくさんの児童が、しっかりとした挨拶をしてくれています。夕刻あたり、留守家庭児童会の児童だと思いましたが、1年生の女の子がひとりで中庭を通ります。いつも窓越しに校長室を見えています。必ず「校長先生さようなら」とあいさつをして通りすぎていきます。心のコップがしっかり上を向いているから、しっかり指導が入っている。あいさつをしなければならないと、強く思ってくれているのです。これほど素直できれいな心をもっている子に、全力で学習を落とし込んでいく。学力が身につかないはずがないと思っています。学力をつけるためにも、子どもたちの将来を幸せなものにしていくためにも、心のコップ(素直な心)って本当に大切なものだと思います。

正門で下校する児童に「さようなら」とあいさつしていると、お迎えの保護者の中で「校長先生にちゃんとあいさつした？」と声掛けをしてくださる方が何人もいらっしゃいます。これは学校にはできない、大切な指導だと感謝しています。小学生の子ども達にとって、何より効果的な指導は、学校の教師のものでもなく、地域の見守りの人のものでもなく、親の声掛けなのだと思います。

いろいろと無理なお願いをしているのかも知れませんが、ぜひともご協力お願い致します。

※11月13日(土)50周年記念式典にて、PTAより紅白饅頭が配付されます。食物アレルギー等、不都合がございましたら、10月8日(金)までに担任までお申し出ください。